

平成 30 年 2 月 20 日

奈良 保 育 学 院
学院長 多中 祥元 殿

学校関係者評価委員会
委員長 大原 敏敬

学校関係者評価委員会報告

平成 28 年度自己点検・自己評価報告書の結果に基づき実施した平成 29 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告いたします。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 西山 明彦（奈良市私立幼稚園協会会長、いさがわ幼稚園園長）
- ② 松村 善子（極楽坊保育園園長）
- ③ 大原 敏敬（奈良県私学専修学校連合会会長、大原和服専門学園理事長）
- ④ 木本 悦子（奈良保育学院三友会会長）
- ⑤ 米田 久美子（香芝市子ども支援課職員、奈良保育学院第 19 期卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 平成 29 年 6 月 17 日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）
第 2 回委員会 平成 29 年 11 月 11 日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）
第 3 回委員会 平成 30 年 2 月 17 日（会場 奈良保育学院 実習・演習室）

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

学校関係者評価報告書

I 重点目標について

1 重点目標 1. について

重点目標	<p>1. 卒業学年全員の幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得並びに関係分野への就職</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学外実習の事前事後指導、進路及び学年担当教員による適時の学生への関わり、専任全教員の情報共有、様々な教育活動等を通して、学生の就職に関する意識の向上を図る。 ・ 幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格取得率 100%と関係分野への就職率 100%を目指す。 ・ 日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格取得率 100%を目指し、コミュニケーション力及び対人関係力の向上を図る。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な進路の希望が出ていない学生は、従来型の幼稚園・保育所と「こども園」との間で迷い悩んではないか。 ・ 社会のニーズの高まりによって企業内施設や託児所に就職するようなケースはないのか。 ・ また、就職先と学生のマッチングは難しくないのか。 ・ 免許・資格取得者の関係職への就職率 100%は素晴らしい。 ・ 現場では様々な気配りや保護者対応が求められるため、ピアヘルパー資格は有用だと思う。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は幼保連携型に 1 名が実習に行っている。その報告を受け、学内で情報を共有し検討していきたい。 ・ 学生が希望する施設があれば、(認可保育所や幼稚園、その他を問わず) まず見学に行かせるようにして、学生と施設とのマッチングを図っている。 ・ 今後とも免許・資格の取得率 100%を目指して取り組みたい。

2 重点目標 2. について

重点目標	<p>2. 職業実践専門課程認定校としての充実した教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 28 年 2 月の認可を受けて、認定校としての自覚を持ち、充実した教育を推進する。 ・ 平成 26 度より実施している学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を引き続き開催し、教育課程の改善及び学校運営力の向上を図る。 ・ 実習先や就職先など関係機関との連携を強化し、実践力養成、保育現場における早期離職への対応、保育士の補充、経験者の再就職の促進及び強化に寄与する。
------	--

委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価4の項目が多く、概ね良い取り組みが感じられる。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業実践専門課程が認定されて本年3月で2年が経過する。認定校としての意識と自覚を常にもち、今後さらに充実した教育・学校運営を実施していきたい。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校法人白藤学園の開学者である越智宣哲による建学の精神「敬身・敬学・敬事」に基づき、人格的・知的・情緒的に優れた幼児教育者及び児童福祉従事者を養成することを目指している。そのために、開講科目の70%以上を演習・実習科目として設定し、必要な専門的知識と技能を在学期間の2年間で習得する。以上の事項は、学則、学生便覧、学校案内パンフレット等各種広報誌、公式webサイトに記載しており、学外への周知とともに、教職員や法人役員にも公表している。 ・ 中期的構想は、年度初めの学園会議にて示されるとともに、進捗状況が報告され構想の実現に向けて意識を共有している。また、教育・福祉の現場で望まれる学生像を学生便覧に掲載し、オリエンテーション等の機会に学生へ指導している。 ・ 教育目標を達成するため、少人数制による教育、幼稚園・保育所・福祉施設との連携を密にした実習指導、学外ホールにおける演目発表、地域との関係性を重視したボランティア活動などを通して、学生が常に目標を持って活動できるような実践的取り組みを実施している。 ・ 平成28年度卒業生は、卒業資格100%、幼稚園教諭二種免許状取得率94%、保育士資格取得率98%、両資格・免許取得者における関係職就職希望者の就職率100%、ピアヘルパー資格取得率96%であった。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 免許・資格取得者の関係職への就職率100%は素晴らしい。 ・ 保育の現場では、実技よりも精神面や人との関わりが重要だといえる。最近では、子供の後ろにいる親との関係性が重要ともいえる。 ・ ピアヘルパーの資格を取得すると、職場でどのように役立つのか。 ・ 教員が学生と会話する際、友達同士のように会話をする（場合）がある。場面や相手にふさわしい言葉遣い・接し方を教育してほしい。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 免許・資格の取得率100%を目指して取り組みたい。 ・ 学生への就職活動のサポートとして、教員が付き添って就職先を見せる取り組みも積極的に行っている。 ・ 言葉遣いや態度等について、学校生活や授業時の指導をさらに強化していく。

2 学校運営

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められており、学校運営方針は教職員に明示され、伝わっている。また、学園運営に関わる必要な諸規程は整備できている。 ・ 平成 24 年に学園創設 120 周年を迎えたことを契機に、中期事業計画として「120 周年ビジョン」を策定し、この中で学院の目的、目標を達成するため、関連事業計画を定めている。 ・ 運営組織や意思決定機能は、学園運営組織表・校務分掌で定め機能しており、組織の構成員それぞれの職務分掌と責任は明確になっている。しかし、今後厳しい学園運営が予想され、理事会・評議員会・各種会議では実効性のある徹底した議論が必要である。 ・ 教員の確保に関して、設置基準等の定めるところにより必要人員を配置している。賃金等処遇については、平成 26 年度から「目標管理制度」を実施し、その結果に基づき人事考課を行っている。人事考課の結果は当面、翌年度の賞与支給に反映させ、将来的には昇給にも反映させていく予定。 ・ 意思決定システムの確立については、寄附行為・関係規則・学園運営組織表・校務分掌により制度化できている。 ・ 平成 27 年度に学園内の LAN システムを構築し、教職員一人一人が PC を持ち、事務の効率化につなげている。 ・ 効率的な学生管理を行うため、学校管理システムの導入について検討する。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の常勤教員の入れ替わりがあったようだが、特別の事由があったのか。
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時期の偶然の重なりで、従来にも増して確固たる運営を行うべく取り組んでいる。

3 教育活動

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育目標・育成人材像は、本学に対応する人材ニーズに正しく方向付けられており、十分な内容で定められている。 ・ カリキュラムは、文部科学省及び厚生労働省の通知に基づき目標達成に向けて体系的に編成されており、各科目は監督官庁のシラバスモデルに基づき適正な位置づけとなっている。 ・ 目標とする資格はカリキュラム上で明確に定めており、資格取得を支援する教育内容となっている。また、学年担当制を設定し、きめ細かな指導を実施している。 ・ 成績評価・単位認定の基準は学則に明記しており、その内容に則った成績評価・単位認定の方法及び基準を各教科のシラバスに記載している。実践力向上のため、関係科目における担当者間の情報交換を行い、適切に協業している。 ・ 常勤・非常勤ともに、採用時には履歴書及び教育研究業績書の提出を求めている。
-----------	---

	<p>いる。文部科学省による資格審査に合格し、育成目標に向けた授業を行うことができる要件を備えた教員を確保している。更なる専門性向上のため、学会や研究発表、研究紀要の執筆等を奨励している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を客観的に評価・分析することを目的として学生による授業評価アンケートを実施している。アンケートの集計結果は各教科担当教員へ報告し、授業改善への活用を促している。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学外実習（保育所）の評価については、評価する側は実習生が保育者への志望意識を潰さないようにとの思いをもって行っているが、様々な実習生がおり評価する難しさを感じることもある。 ・ 教育機関は閉鎖的であってはいけないと思うので、アンケートを実施する取り組みは評価できる。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場の先生からの指導は養成校での指導に比べると効果が大きいと感じられる。保育者への志望意識の涵養の視点を持ちながら、保育現場を踏まえた指導も合わせてお願いしたい。評価の基準については、実習担当教員で検討していきたい。 ・ 今年度から、教員自身にも授業評価を導入し、教員の意識向上を図っている。

4 学修成果

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格に関しては、取得率の向上に努めており、取得者数とその推移に関する情報は明確に把握している。平成 28 年度卒業生は、全員が卒業資格を有し、幼稚園教諭二種免許状取得率 94%、保育士資格取得率 98%であった。また、両資格・免許取得者における関係職就職希望者の就職率は 100%であった。その他関連する資格として、日本教育カウンセラー協会認定のピアヘルパー資格の取得を目指しており、平成 28 年度は合格率 96%であった。資格・免許取得率及び就職率については、その推移に関する情報を明確に把握しており、引き続き向上に努める。 ・ 学年担当制をとり、学年担当が個々の学生の相談及び指導にあたっている。各授業の様子や欠課時数については教員間で共有し、随時連絡をとる体制を整えている。 ・ 就職担当教員を中心として前年度卒業者の就職先を訪問し、卒業生の様子の把握や離職率の防止に努めている。また、学校案内パンフレット、進学情報誌、公式 web サイト等における紹介、就職ガイダンスの講師として招聘することなどを通して、近況を把握している。在校生については、保育・教育実習、地域でのボランティア活動、学外会館での表現活動発表会を通じて、教育・保育・福祉の現場からの評価を把握している。引き続き、卒業生の活躍を把握し紹介することで、在学生のモチベーションを高めていきたい。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアヘルパーを取得すると、職場でどのように役立つのか？ ・ 現場では実技よりも、精神面・人と関わられるのかという方が重要だといえる。最近では子供の後ろにいる保護者との関係性を構築することが重要で

	<p>あると考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習訪問時の養成校教員と実習生の会話において、言葉遣いに不適切な感じを持つことがあるが、学校ではいかがか。 ・ 表現活動発表会は、園児のためにもぜひ継続してほしい。発表会の様子についてメディア等を活用し、その活動の知名度を上げていってはどうか。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対人コミュニケーションや傾聴ということに役立つと考えられる。 ・ TPOに応じた行動・所作は実習場面に限らず大切なので、さらに指導を強化したい。 ・ 表現活動発表会は、学生にとっても園児に観賞してもらうことがとても励みになっているので、さらに充実した内容で開催していきたい。現在、奈良新聞や学院ホームページで発表会の様子を公表しているが、さらなる開拓を検討したい。

5 学生支援

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の就職・進学指導に関する体制を整備し、就職・成績・生活面等、随時個人面談を実施している。また、成績不振学生の保護者には奨励文書の送付や面談を実施しており、その他指導または配慮を要する学生の保護者にも必要に応じて連絡・面談を実施している。面談時の様子や内容については、文書化して保管するよう検討する。 ・ 学費に関する支援体制は、奨学金制度、学費分納制度、緊急時貸与制度を整備している。奨学金制度は、日本学生支援機構を利用している。 ・ 学生相談に関する体制は、学年担当制をとって学生と密に関わることで適切に対応している。また、学園共有の教育相談室には教育相談員が常時在室しており、専門のカウンセラーも週1回来校している。 ・ 学生の健康管理を担う組織体制は、学園共有の保健室に養護教諭が在室しており、学院の教員と連携しながら対応している。 ・ クラブ活動は学生の自主性に任せており、自治会役員とクラブ部長を中心として、自治会担当教員と連携しながら活動を適宜実施している。また、クラブに関する規程は学生便覧に明記している。 ・ 卒業生への支援体制に関しては、同窓会を組織しており、定期的に総会や会合を開催している。また、就職担当教員を中心とした教員による卒業生の就職先訪問や転職希望者への情報提供・面談などを実施しており、卒業後の支援体制も整えている。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生・保護者・園児など人間には様々な経験が大切である。園児にとって保護者の存在は重要な人的環境となる。そのため、その点を踏まえた指導が大切である。 ・ 経済的に厳しい家庭の学生にはどのように対応しているのか？

<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 養成校の教員は学生にとって模範であり環境的な要素であることを改めて認識して、今後の様々な活動に取り組んでいきたい。 ・ 経済的に厳しい家庭の学生には、学園の事務員が対応している。学園事務員と学院教員が連携し、支援体制をとっている。
----------------	--

6 教育環境

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設・設備はいずれの建物も耐震基準を満たしており、不具合がみられる場合は適宜メンテナンスを実施している。セキュリティ管理は、監視カメラの設置、機械警備の契約、通用口の施錠、侵入防止扉の設置など、万全を期している。学生の保険についても見直し、平成 28 年度より課外ボランティア活動にも対応した保険に加入すべく準備を進めている。引き続き、安全管理に関する意識向上に努め、危険及び事故防止を徹底していく。 ・ 大規模地震に対応した消防防災訓練実施マニュアルを学園として作成しており、学園防災避難訓練を定期的実施し、危険物等の管理も徹底している。防災備蓄については、平成 28 年度より定期的に補充・管理していく方針であり、災害への備えを万全にすべく準備を進めている。 ・ 学外実習に関しては、学外の関係機関と連携して十分な教育体制を整備しており、実習事前事後指導を徹底し、指導にあたっている。 ・ インターンシップや海外研修は、希望者がいる場合に情報を提供できるような資料を保管している。
<p>委員による意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人的環境として学校での指導は個々の教員の実践力も勿論だが、チームプレー（教員の結束力）も必要である。 ・ 通用門の施錠など、教職員の保全・危機管理への意識が高いことは評価できる。
<p>学校側の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学院では教員の学会や研究会への参加を奨励すると共に、教員対象の研修会を年に数回実施し、教員の実践力向上に努めている。教員間の情報共有を密にして様々な業務に取り組んでいるが、さらに連携を強めていきたい。

7 学生募集と受入れ

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集活動は適正に行われており、当該年度の入学者、卒業者、就職希望者数、就職者数は指導監督庁に報告している。学校案内は志願者や保護者の立場を考慮した内容となっており、問い合わせや相談への対応は、専任教員全員が可能となるような体制を整えている。 ・ 入学選考は公平性を保つために全教員が関わり、筆記試験及び面接の結果を踏まえて協議により判定している。入学選考に関する情報と推移は正確に把握しており、平成 27 年度は前年度と比較して資料請求件数・オープンキャンパス参加者数・受験者数が増加した。年度による増減は見込まれるため、少子化や大学・短大志向の影響も考慮し、高校訪問のあり方や企業主催の進路相談会等への参加については今後も検討していく。
-----------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学納金は、他の大学・短期大学・専門学校と比べて低額であり、学生・保護者の大きな負担感はないものと推察される。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の様子は、学校の教育や指導する教員への評価につながる。専門学校に進学する学生の目標意識の高さを感じてもらうことは、大きな進学判断材料となるだろう。 ・ 広報や募集に関する発信の方法及び内容は大切である。本年度作成の学院パンフレットはノート形式で、見やすく良い。 ・ 白藤学園には高校と幼稚園があり、組織として連携を図り盛り上げていてもらいたい。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が普段の学びを活かして総合的な力を発揮できるような機会を今後も設け、積極的に情報発信していきたい。 ・ パンフレットを含めた広報媒体は相当数あるが、掲載情報・方法等については全教員で関わり見直しを行っている。今後、種々の媒体を通じて発信力を更に高めていきたい。 ・ 今年度の入試は D 日程まで終了したが、現時点で定員の 50 名を確保できている。 ・ 奈良女子高校と学院のさらなる連携を図り、組織をあげて学生募集に取り組みたい。

8 財務

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期的に財務基盤は必ずしも安定しているといえない。学園全体の財政基盤を確立させるため、引き続き学生・生徒・園児数の必要定数を確保していく必要がある。 ・ 年度予算は、教育の充実と費用効果等を勘案し、適切に編成および執行しており、会計監査人及び監事の監査は、定期的かつ適切に行われている。 ・ 財務状況の公開については、平成 27 年度より公式 web サイトにて公開しており、その他必要に応じて開示している。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「財務基盤が必ずしも安定しているといえない」とはどうしてか？
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財務管理は法人で厳格に行っている。学園全体としての財務状況は決して楽観できない。教育を取り巻く状況は目まぐるしく変化していく中、法人の 3 つの組織が一丸となって対応していきたい。

9 法令等の遵守

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令や設置基準は遵守している。 ・ 学校が保有する個人情報に関する保護対策及び教職員への周知は徹底している。学生に対しては、近年、SNS への書き込みなどメディア機器を通じた情報流出が社会全体として問題視されていることも踏まえ、特に学外関係機関で知り得た情報を意図の有無に関わらず流出させた場合には懲戒処分に値する旨を学生便覧へ追記し、その重大さと守秘義務を教授している。
----	---

	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度より学園共通の職場におけるハラスメント防止に関する指針を策定し、相談マニュアルを作成した。 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めている。結果については、平成 26 年度より学校関係者評価委員会にて評価を実施し、平成 27 年度より評価結果概要及び報告書を公式 web サイト上で公開している。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> SNS では情報が正しく伝わらない場合があるので、その利用の仕方に関しては十分に注意すべきである。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘を重く受けとめ、引き続き SNS 等のメディア情報に対する指導を徹底させていきたい。

10 社会貢献・地域貢献

評価	<ul style="list-style-type: none"> 社会および地域貢献活動の一環として、平成 26 年度より、幼稚園教諭免許状保有者を対象とした保育士資格取得制度（特例教科目制度）を開講している。また、奈良教育大学と連携して、幼稚園教諭免許状保有者を対象とした免許状更新講習会を実施している。いずれも定数を確保している。 子育て支援センターを含む地域の催しにおける学生の参加や出張公演等、ボランティア活動の積極的な参加を促進・奨励している。活動の様子は公式 web サイトや学園新聞等を通じて広く公開している。学校は、学生の教育だけでなく、社会への情報発信や地域活動の拠点としての役割を担っていることを認識し、活動に取り組んでいる。 学園全体として環境問題への啓蒙活動を実施しており、学園周りの花壇の整備や空調の温度制限を実施している。
委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> 貴学の正門前の花壇はきれいであり、学校前を通るときに観賞させてもらっている。地域活動としてもよいと思う。 いまは虫が苦手という子供がいる。保護者のなかには、子供に蚊を寄せ付けないよう配慮してほしいと要望する方があり困惑することもある（たとえば、蚊を寄せ付けないスプレーをふるなど。一方で行政からは薬を多用してはならないという指導がある）。 自分の興味以外のところに関心を向けられない子供が増えたように感じる。
学校側の取組み	<ul style="list-style-type: none"> 保育士資格取得制度（特例教科目制度）及び教員免許状更新講習会は、引き続き実施していく。 地域の催しに積極的に参加し、地域貢献を果たしていく。 学園周りの花壇に花植えを行っているが、その活動への学生参加をさらに促進していく。